

# 13 キャリア教育と進路指導

## 1 キャリア教育

社会の様々な領域において構造的な変化が進行しています。特に産業や経済の分野においてはその変容の度合いが著しく大きく、雇用形態の多様化・流動化にも直結しています。

このような中、学校教育においては、児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ、各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることが求められています。

### (1) キャリア教育とは何か

#### ア キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育  
(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

キャリア教育は、子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけです。そして、キャリアの形成にとって重要なのは、自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けることにあります。したがって、キャリア教育は、子ども・若者一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることを目指すものです。自分が自分として生きるために、「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現させていく姿がキャリア教育の目指す子ども・若者の姿なのです。

これらのことを踏まえ、平成23年に中央教育審議会はキャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義しました。

#### キャリアとは

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。  
(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

#### キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。  
(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

#### キャリア教育で育成すべき力―「基礎的・汎用的能力」とは

「基礎的・汎用的能力」は、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力によって構成される。  
(文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」(平成23年3月))

## イ キャリア教育の充実

キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動の学級活動を要としながら、総合的な学習（探究）の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としての教育相談等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要になります。

また、将来の生活や社会と関連付けながら、見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点からも求められます。

キャリア教育は、児童生徒に将来の生活や社会、職業などとの関連を意識させる学習であることから、その実施に当たっては、職場見学や社会人講話などの機会の確保が欠かせません。「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、幅広い地域住民等と目標やビジョンを共有し、連携・協働して児童生徒を育てていくことが大切です。

さらに、キャリア教育を進めるに当たり、家庭・保護者の役割やその影響の大きさを考慮し、家庭・保護者との共通理解を図りながら進めることが重要です。その際、各学校は、保護者が児童生徒の進路や職業に関する情報を必ずしも十分に得られていない状況等を踏まえて、産業構造や進路を巡る環境の変化等の現実に即した情報を提供して共通理解を図った上で、将来、児童生徒が社会の中での自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための働きかけを行うことが必要です。

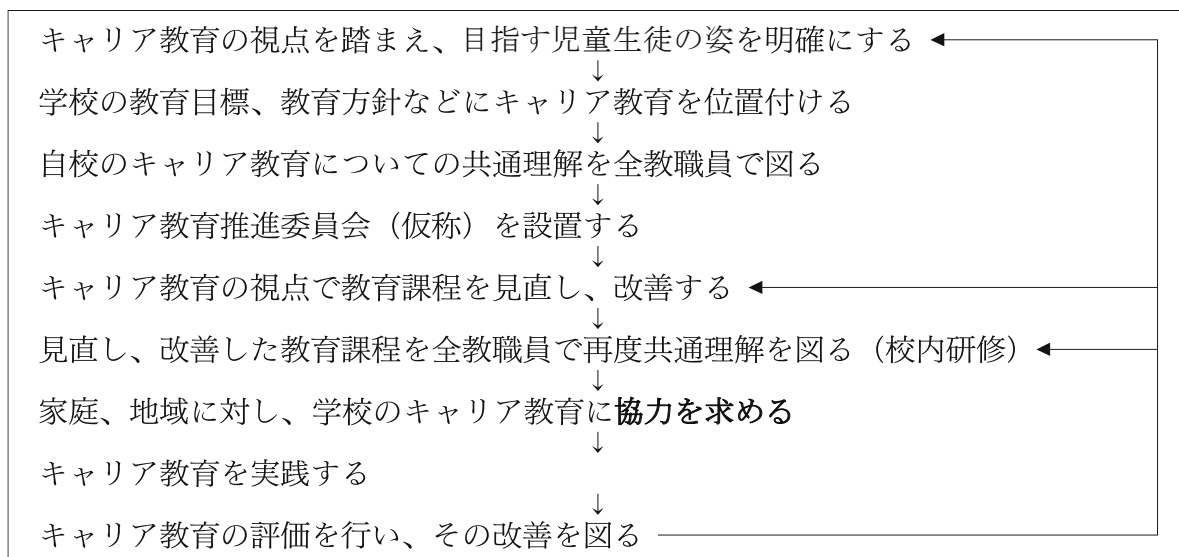
### 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達

	小学校	中学校	高等学校	大学・専門学校・社会人
	〈キャリア発達段階〉			
就 学 前	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己及び他者への積極的関心の形成・発展</li> <li>○ 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上</li> <li>○ 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得</li> <li>○ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 肯定的自己理解と自己有用感の獲得</li> <li>○ 興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成</li> <li>○ 進路計画の立案と暫定的選択</li> <li>○ 生き方や進路に関する現実的探索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己理解の深化と自己受容</li> <li>○ 選択基準としての勤労観・職業観の確立</li> <li>○ 将来設計の立案と社会的移行の準備</li> <li>○ 進路の現実吟味と試行的参加</li> </ul>	

## (2) キャリア教育推進のために

### ア 学校におけるキャリア教育推進の手順例

各学校においては、目標及び育成すべき能力や態度、教育内容・方法などについて決定するなどして、次のような手順でキャリア教育を推進していくことが大切です。



## イ 全体計画の作成

キャリア教育は、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な学校教育全体の活動を通じて体系的に行われるものです。

各学校においては、児童生徒や地域の実態に応じて学校ごとに焦点化・重点化して、全体計画の作成に当たることが大切です。

### 全体計画に盛り込むべき項目の例

- ① 必須の要件として記すべきことから
  - ・各学校において定めるキャリア教育の目標 ・教育内容と方法
  - ・育成すべき能力や態度〈基礎的・汎用的能力〉 ・各教科等との関連
- ② 基本的な内容や方針等に概括的に示すことから
  - ・学習活動 ・指導体制 ・学習の評価
- ③ その他、各学校が全体計画を示す上で必要と考えることから
  - ・学校の教育目標 ・当該年度の重点目標 ・地域の実態と願い ・児童生徒の実態
  - ・教職員の願い ・保護者の願い ・学校間の連携

## ウ 年間指導計画の作成

年間指導計画の作成に当たっては、各学校における児童生徒の実態や発達の段階に応じた目標や内容となるよう検討する必要があります。各教科等及び学級や学年の取組等の具体的な計画を体系的に作成し、それぞれのねらいや内容を踏まえた上で、関連付けます。また、学習指導要領との関連を考慮した上で、評価の観点についても検討する必要があります。こうして作成した各学校の計画については、教職員や保護者、地域が共通理解をもち、連携していくことが大切です。

### 年間指導計画作成の留意点

- 各学校の児童生徒の実態や発達の段階に応じた目標や内容にする
- 各教科等及び学級や学年の取組等、それぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けを図る
- 小学校6年間、中学校3年間、高等学校3年間を通じ児童生徒のキャリア発達を支援できるよう、具体的で系統的なものとする
- 各教科等の学習指導要領との関連を図る
- 評価の視点等を考慮し、評価方法を検討する
- 家庭や地域、学校間の連携を考慮する

## エ 連携について

新しい時代を生きる子どもたちは、社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのではなく、変化を前向きに受け止め、人間ならではの感性を働かせて社会や人生、生活をより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる力を身に付けることが求められています。

このため、学校と保護者や地域住民は、お互いの情報や課題を共有し、これからの時代を生きる子どもたちのために共通の目標やビジョンをもつなど、共に子どもたちの成長に関わっていくような体制をつくり、子どもたちが信頼できる大人と関わる機会を多く設けていくことが必要となります。

こうしたことから、学校は地域の自治体や社会教育関係団体のほか、教育に高い関心のある企業の方々などと連携・協働し、子どもたちの学びを充実させていくことが重要です。

### (3) 「キャリア・パスポート」の活用

#### ア 「キャリア・パスポート」とは

児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価するポートフォリオ

各学校においては、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材（「キャリア・パスポート」）を活用することにより、児童生徒が自らのキャリア形成のために必要な様々な汎用的能力を育成することが大切です。

#### イ 「キャリア・パスポート」活用の目的

児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげることができます。

教師にとっては、児童生徒が「キャリア・パスポート」に記述した内容をもとに対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的に指導を行うことができます。

### (4) 「キャリア・パスポート」の活用方法

#### ア 「日々の授業」をつなぐ

「キャリア・パスポート」と日常の振り返る活動を関連付け、考えを振り返ったり、表現したりする機会の充実を図ることが大切です。授業で培われた振り返る力が、「キャリア・パスポート」を書くための基盤となることを意識しながら指導するなど、各教科等のノート等を活用した振り返りと、学期や学年など一定の時間を取って行われる「キャリア・パスポート」の活用を一体的に捉え、振り返る力を育成することが効果的です。

「キャリア・パスポート」により、日々の記録の再編集や取捨選択を行い学年や校種を越えた活用を意図した記録の蓄積を図ります。

#### イ 「小・中・高」をつなぐ

「キャリア・パスポート」は、校種間の体系的なキャリア教育と関連付け、入学期・卒業期に、自分の成長を振り返りながら、将来の生き方を考える機会を活用することが大切です。振り返りの場面において、その時の気持ちなどを思い出す手がかりとなるよう、具体的に記述させます。

#### ウ 「自己理解」、「児童生徒理解」につなぐ

児童生徒の自己理解の促進に当たっては、自分の成長を自覚できるよう、「キャリア・パスポート」を活用した記録を学年や校種を越えて引き継ぐことが効果的です。

教師の児童生徒理解に当たっては、身に付けさせたい力を明確にした教育活動を行う中で、学びのつながりや児童生徒の変容を見取ることが効果的です。

[参考]

- ・キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編（文部科学省 平成30年～令和4年）
- ・「キャリア・パスポート」例示資料等（文部科学省 平成31年3月）

## 家庭・保護者との連携

### 【家庭・保護者に向けて発信できる機会や手段の例】

- 学校だより、進路だよりなど
- 保護者、学級懇談会
- 地区（地域）懇談会
- 三者面談、進路相談
- 学校の公式ウェブサイト（ホームページ）
- 授業公開、シラバス、学校（行事）公開
- 進路説明会
- 家庭教育講演会など

### 【家庭・保護者・地域が学校と連携して協力できることの例】

- しつけ、子どもへの接し方
- 働くことを通じての家族の会話
- キャリア教育講座（ゲストティーチャー）、講演会（社会人講話）
- 幼児、高齢者、障がいのある人々との触れ合い体験（保育実習やボランティア活動など）
- 家庭における役割分担、家事分担
- 卒業生や地域の方の体験談を聞く会
- 講演会（社会人講話）

## 地域・事業所等との連携

### 【地域・事業所等に期待される役割の例】

- 学校との意見交換や情報交換の場を設定し、緊密な連携を図る（地域の経済団体や教育委員会などの活用）
- 事業所から学校へ従業員を派遣し、講話やグループワークなどを通して、児童生徒が望ましい勤労観や職業観を形成するための支援を行う
- 事業所訪問（インタビュー活動）、職場体験活動やインターンシップ等の体験的なキャリア教育の意義や必要性を理解し、教育支援活動をより充実させる

### 【児童生徒が地域の中でできることの例】

- 街中探索、社会科見学、職場見学、事業所訪問・職場体験活動、インターンシップ
- 上級学校訪問・体験
- 保育体験・福祉体験
- お祭りや伝統芸能などの地域行事への参加
- ボランティア活動
- 自治会や公民館・図書館などの活動

## 学校間（異校種間）連携

### 【学校間連携の考え方】

- 学校間（特に異校種間）の活動について、互いに理解を深める
- 発達の段階に応じた系統性のある指導計画を作成する
- 個に応じた指導を継続的に行うために、児童生徒のキャリア発達の状況についてキャリアパスポート（ノート）を活用して情報を引き継ぐ
- 個々の児童生徒について学校間での連絡会をもち、教育計画等について情報交換をする

### 【学校間連携の活動例】

- 幼稚園訪問・学校探検、上級学校訪問（説明会・見学会・体験入学・学校行事など）
- 職場体験学習（幼稚園・保育園など）
- 上級学校の生徒との交流（縦割り活動、合同行事、授業内交流、部活動など）
- 体験授業（異校種への出前授業）・クラブ体験
- 教員連携（小・中学校における教員の相互の乗り入れ授業）
- 連絡協議会（学習状況・生活状況・人間関係などの情報交換や教育計画などの情報交換）